

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
学び合う子 思いやる子 たくましい子を育てる	学び合う授業を通して、主体的に学ぶ意欲を育てる。 お互いを認め、自分も友達も大切にすることを育てる。 自分で決め、最後までやりとげる力を育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(小学校) ○国語A、国語B、算数Aについては、県平均と比べると正答率が高い。 ○算数Bについては、県平均と比べると正答率が低い。 ○国語A、国語Bでは、「書くこと」「読むこと」の領域は県平均と比べて正答率が高いが、「話すこと・聞くこと」の領域で課題がある。 国語A-2 書かれている内容の説明として適切なものを選択する 本校91.2%(全国79.7%) 国語A-1 話し合いの報告の説明として適切なものを選択する 本校50%(全国69.2%) ○算数Aの「数と計算」の領域は全国平均と比べて正答率が高いが、算数Bの「量と測定」の領域で課題がある。 算数A-2(4) 5÷9の商を分数で表す 本校97.1%(全国69.2%) 算数B-3(1) 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ 本校50.0%(全国67.9%) 県(小学校【3年～5年】) ○各学年の国語、算数の正答率が、県平均を下回った。 ○国語「読むこと」、算数「量と測定」「数量関係」の領域で、県平均との差が大きい。	【学習状況調査の結果】 ○「テレビ等の視聴時間」が1日1時間以上の児童の割合が県平均より高い。「テレビゲームの時間」「携帯・スマホの時間」も同様で、特に「携帯・スマホの時間」が1日1時間以上の児童の割合は35%を超えている。 ○「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は県平均より高いが、「家庭学習の時間」が1日1時間以上の児童の割合が県平均より低い。 ○「読書の時間」が1日30分以上の児童の割合は県平均より低く、読書を全くしない児童が20%を超えている。 ○「自分にはよいところがある」「友達の前で自分の意見を発表することが得意」と回答した児童の割合が県平均より低い。 ○「学校で、友達と会うのが楽しい」「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」児童の割合は県平均より高い。

成果	課題
○前年11月のたしかめテストの結果を受けて、正答率が低かった問題を中心に復習を取り入れた。今年度は、国語A、B、算数A、Bのいずれも全国との差が改善された。 ○新聞のコラムを活用し字数制限のある文章を書いたり、全校での読書活動を進めたりすることで、「書くこと」「読むこと」の領域で、全国平均との差が改善された。 国語A「書くこと」本年度+8.5(昨年度-2.8) 「読むこと」本年度+4.3(昨年度+1.5) ○朝学習や補充学習で下学年の復習を取り入れ、国語科を中心に授業改善をすすめた。国語Bの全国平均との差が改善された。 国語B 本年度 +0.5(昨年度-6.9)	○小学6年では、昨年度同様、国語B、算数Bともに「選択式」の設問についての正答率が低い。国語では、最も適切なものを選びとる力、算数では、正しい式や図を判断する力をつけていくことが課題である。 ○小学3～5年では、各学年において基礎・基本的な内容の定着を図るとともに、国語では「目的・意図に応じて文章構成や表現を見直す問題」、算数では「小数や分数の数直線上での表し方」を系統的に指導していく必要がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
授業改善	来年4月	「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」 「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる」 →肯定的な回答が全国平均を超える。	授業の中でペアやグループでの活動を取り入れ、子どもたちが学び合いながら考えを深めたり広げたりできるようにする。授業のふりかえりを行い、友達と交流したよさを実感できるようにする。	各学年でペアやグループでの活動を取り入れた授業改善が進んできた。友達と考えを交流することを楽しんだり、よさに気付いたりする姿が見られたりするようになってきた。	B	人の話をよく聞き、自分の考えを伝え合うことができる場面が増えてきた。友達の考えのよさに気付く、穏やかに学んだり、発展的な課題にも意欲的に取り組んだりする姿が見られるようになった。	B	ペアやグループなどの活動の場の設定だけでなく、友達と交流したくなる課題について教材研究を進め、授業を通して友達同士がつながり、穏やかに学ぶことができるようにしていきたい。
基礎基本の定着	来年4月	全国学力・学習状況調査において、各教科の平均正答率が全国平均を上回ることができる。	朝学習や補充学習などで、問題データベースを活用し、下学年の復習を取り入れ、直しも徹底する。漢字週間・計算週間を設け、漢字や計算に集中して取り組む。	朝学習を継続し、漢字や計算の復習をしている。高学年では漢字の小テストでの正答率は9割である。	B	秋チェックなどを活用し、各学年で漢字や計算の復習ができています。しかし、全員が基礎的な内容について十分に定着しているとはいえない。	B	朝学習などで定期的に定着状況を確認しながら、漢字や計算などの基礎的な内容について、さらに定着を図りたい。
読書・作文指導	来年4月	「1日あたりの読書時間」 「読書が好き」 →肯定的な回答が全国平均を超える。	読書活動を進め、様々な読み物に触れたり、語彙を増やすための取組を行う。作文指導では、字数を決めたり条件をつけたりするなど指導を工夫し、評価して返していく。	読書に親しむ活動を各学年で取り入れ、高学年ではおすすの本を紹介する取り組みを進めている。作文指導も継続してできている。	B	全校で「読書チャレンジ30」の取組を進め、図書室で本を借りて読む機会が増えた。放送委員会の「意見込みアンケート」では自分の思いを言葉で伝える経験もできた。	B	全校での取組を進め、異学年交流でおすすめの本を紹介し合うなど、さらに読書に親しむ機会を増やしていきたい。

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○家庭学習の100%提出をめざす。(毎日一定の時刻、時間に、きちんと学習に向かう習慣づけをする。) ○チャイム同時スタート、同時終了。(時間のけじめの大切さを実感させる。) ○授業の中に学び合いを取り入れる。(ペアやグループ学習で、自分の考えを広げ深めさせる。) ○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。	○家庭学習については「家庭学習のすすめ」をもとに学級懇話や通信などで協力を呼びかける。 ○ノーマディアの取組を進め、各家庭での過ごし方について考える機会を持てるようにする。 ○基本的な生活習慣の定着に向けて、生活習慣チェックカードの取組について理解と協力を求める。